

編集後記：5月21日に太平洋側の広い範囲で金環食が見られました。天文少年だった私は小学生の時に今回の金環食を知ったのですが、それ以来ずっと心待ちにしてきたこともあり、雲間に輝くリングの姿にひときわ感激しました。つくばのエキスポセンターには早朝にもかかわらず1800人も親子連れが集まったそうで、子供達が科学への関心を深める良いきっかけになったと思います。金環食を機に私の最近の日課となったのが太陽観測です。水素の輝線スペクトル $H\alpha$ 線だけを通す太陽望遠鏡を使って、出勤前に黒点やプラージュ、プロミネンスなどを眺めています。太陽の変化に富んだ姿は、地球大気に負けず劣らず見ていて飽きません。

ご存知のとおり太陽には11年の活動周期があります。が長期的にも変動しており、17世紀後半には不活発で

黒点がほとんどなかったマウンダー極小期と呼ばれる期間がありました。先日太陽観測衛星「ひので」が、予想よりも早い太陽極域磁場の反転を捉え、国立天文台は太陽活動が今後低調になる可能性を示唆しています。今回のような異変を捉えたのは、現代的な太陽観測を開始して以来初めてだそうです。地球大気の運動を特徴付けているのは自転と水の存在ですが、駆動エネルギーの源泉は太陽です。もし今後太陽活動が大きく変わることがあれば、太陽活動の気候への影響を詳しく検証するための貴重な機会となるかも知れません。

2035年にはつくばでも皆既日食が見られるそうです。その時もどうか「天気」に恵まれますように。

(上口賢治)